

# 平成27年度 第6回（震災後第58回） 陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「コミュニティヘルスと地域ケア会議を実践してみよう」

日時：平成27年9月18日（金）13：30～15：30

場所：市役所第4号棟第6会議室

参加：人数 人  
団体 団体

資料：下記にアップ

<http://www.koshu-eisei.net/saigai/rikuzentakatakaigi.html>

## 1. 挨拶

尾形健康推進課長補佐

前回の未来図会議では、キャッチコピー「はまって、かだって、つながって～みんなで輝く陸前高田～」を作成した。きょうも、少数精鋭の皆さんで活発な意見を出してほしい。

## 2. 報告・協議内容

(1) 改めて陸前高田市保健医療福祉未来図会議の目指すこと

・陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也

(2) 宮城県東松島市「ささえあいのまちづくり」の視察について

・陸前高田市 地域包括支援センター（長寿社会課） 保健師 蒲生紋子

(3) 「地域ケア会議」を通じた住民主体のまちづくり～横田町の取り組み～

・陸前高田市 地域包括支援センター（長寿社会課） 社会福祉士 奥村真以子

(4) 陸前高田リハシステムの構築に向けて

・陸前高田療法士グループ 作業療法士 高梨信之さん

(5) グループディスカッション

・地域ケア会議（横田に住んで良かった！を実現する会議）の次の一手は？

(1) 改めて陸前高田市保健医療福祉未来図会議の目指すこと

（ヘルスプロモーション推進センター 岩室紳也氏）

前回、「はまって、かだって、つながって～みんなで輝く陸前高田～」という素晴らしいキャッチコピーをつくったが、「健康とは何か」ということを共有していなかった。「健康とは、身体的、精神的、スピリチュアル、ならびに社会的により良い、調和のとれた状態であり続けることで、単に疾病がないとか、虚弱ではないということではない。」

「健康のつどい」が11月22日に開催される。あわせてAIDS文化フォーラムin陸前

高田を開催するが、なぜ「文化」をつけたのか。文化と健康は非常に密接であるが、どちらもわかりにくいものだと感じたからである。本当の意味での文化や健康は、すっと落ちない。だからこそ、はまかだを繰り返して自分が考える健康、自分が住みやすいまちについて議論していく。健康について皆さん常々振り返り、周りに少しずつ語っていただきたい。

#### 地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

未来図会議も、最初は命を守るところから始まり、最近、地域づくりに発展してきている。蒲生さんは、東松島市でささえあいのまちづくりという取り組みをしており、8月に視察に行ってきた内容をお話いただきたい。

#### (2) 宮城県東松島市「ささえあいのまちづくり」の視察について

(保健師 蒲生紋子氏)

地域包括ケアシステムは、住みなれた地域で最後まで自分らしい暮らしを続けるために、住まい、介護、医療、生活支援、介護予防などの包括的な支援の構築が求められているが人員が不足しており、公的サービスだけでは限界がある。そこで自分らしく暮らし続けるために、地域づくりは自分たちで行うことが必要となっており、自分たちが主体となって活動することで、生きがいや役割、楽しみがより一層感じられると思う。住民主体となった活動の第一歩として、東松島市の活動を8月4日に視察した。

1つ目は、あおい地区の話。個人で家を建てる世帯が並ぶが、公営住宅は307世帯、個人で家を建てる方は580世帯という、大きな防災集団移転となっていることが特徴である。

2つ目は、住民と行政、関係機関が一体となったまちづくりを行っているのがとても印象的だが、例えば陸前高田市で公営住宅に入るときは、市が主導となり抽せんで行っている。自治会長も市で案内を出して決めているが、こちらでは、まちづくり整備協議会を立ち上げ、この協議会で全てを決めて市に報告している。

3つ目。暮らしやすいまちを目指して住民みずからルールを定めている。家を建てるルールも住民みずから決め、景観と防犯を意識したまちづくりを進めており、一からつくるまちづくりだからこそ、日本一のまちづくりを目指していた。

#### 地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

質問がある方は。

#### 及川 氏：

地域で住む前からという話だが、高田では誰が申し込んでいるかさえわからない。話し合いをしたいが、個人情報などが邪魔して実現できていないと聞いたが、こちらでは移転前にどのような話になり、そうなったのか。

#### 尾形健康推進課長補佐

私も視察に同行したが、NPO団体がその会議を仕切ったようで、市からお願いしたらし

い。案内をもらった人たちが、どれどれ俺らの会議だということで、近所の人が一堂に会した。そしてその場で名簿をつくり、そこから先は協議会で自主的に行っていた。

**ヘルスプロモーション推進センター 岩室紳也氏：**

住民が主体となった活動の展開にこそ、生きがい・役割・出番・楽しみが生まれる。まさしくこれが健康である。健康を幅広く捉え、住民に活動してもらうことが復興だという視点で何か仕掛けたい。

### **(3)「地域ケア会議」を通じた住民主体のまちづくり～横田町の取り組み～**

**社会福祉士 奥村真以子氏**

9月16日、横田町のコミュニティセンターにて第1回 地域ケア会議を開催した。地域の方に集まってもらい会議を行うのは、市内で初めての試みである。まず、地域ケア会議という名称を考えるに当たり、会議の内容がわかり、何を指すのかわかりやすい名前ということで、「横田に住んで良かった！を実現する会議」という仮称で皆様に諮り、この名前に決まった。会議で気をつけたことは、「住民の方が主役」ということ。市が呼びかけているが、市が何でもやってくれるのは違うということを繰り返し伝えていく必要があると考える。

そして、参加者で共有することを決めた。1つ目、意見の否定や排除をしない。2番目、失敗を恐れず恥ずかしがらずに発言する。3番目、できないではなく、どうしたらできるかを考える。4番目、不平不満ではなく前向きな発言をする。5番目、個人情報や会議の外に持ち出さない。また、自分のまちづくりを楽しんでもらうことも共有した。

会議場では、会議の目的と目指すところ、東松島の視察報告を行った。そして、横田の強みと生活して困っていることは何かをグループで話し合い発表する形をとった。最初は静かだったが、後半になるに従い笑い声が聞こえ、自分の町のことを考えるのは楽しいものだと感じた。

出てきた環境面の強みは、自然が豊か、川の資源、静かな夜、アユ釣りができる、災害が起こりにくい、災害に強い、犯罪が少ない、県庁に一番近い、畑のものをすぐ食べられる、水が豊富で農作に有利、自給自足ができるのが、横田のいいところ。

ハード面では、川の駅がある、デイサービスがある、交通量が少ないので安心して歩ける、自転車や徒歩で用足しができる、平面が多いのが横田のいいところ。

ソフト面は、人が温かい、住民の結びつきが強く関係が良好。ものづくりができる人がたくさんいる（野菜、しめ縄、手芸）、挨拶をし合う、子供がとても元気がよい、地域で子供を見てくれる、自分の家のものをごちそうするところもいい。最初は、「いいところ」と言われても、生活をしていると当たり前過ぎて、気づかなかったという意見もあった。

困っていることの環境面は、病院が遠い、交通の便が悪い、バス停に出るまでが不便、バスの本数が少ない、民家が分散しているので行き来が不便、買い物が大変、自動車での移動が必要、運転できなくなったら暮らせない、自然が多く草刈りが大変、外灯が少ない、降雪・凍結が厳しい。

困っていることのハード面は、スーパーやコンビニがない、病気のとき1人になると食料

の調達が大変、介護施設が少ない、市の水道がない場所がある、中学校がなくなる、働く場が少ない、歩道の段差のためベビーカーで散歩をするのが大変、集いの場・遊ぶ場所がない、ガソリンスタンドがない。

ソフト面では、人口が少ない、力仕事が大変、次の世代を担う人がいない、仕事が少ない（収入を得る仕事がない）、近所に話し相手がない、親子が集まる機会がない。

第1回のまとめとして、地域で強いと思っていたものが一転して弱みになり、実は弱みとと思っていたものが強みになる。地域ケア会議は今後1カ月に1回ぐらい継続して行いたい。この取り組みをモデルに、将来的には市内全域で展開していきたい。

#### （4）陸前高田リハシステムの構築に向けて

（陸前高田療法士グループ 作業療法士 高梨信之氏）

陸前高田市内の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のリハビリ専門職と言われる私たちがチームをつくり、陸前高田のまちづくりを全面的にサポートしていこうと動き始めた。

リハビリテーションという言葉が、陸前高田市のアクションプランの中に何度も出てくるが、私の知識の中で知っている範囲からすると、行政がこれだけリハビリテーションという文字を前面に出していることはほとんどない。それだけ陸前高田市にとってリハビリテーションは期待されており、専門職の役割を高めていく必要があると感じている。

リハビリ専門職は従来、病院や施設の中にいることが多いが、生活の場に専門職も出ていこうという制度が今年度から進んでいくタイミングで、我々も同時に動き出した。高田の場合、事業所が少ない。全部の事業を1つの施設で請け負うのは厳しいため、高田の療法士の総力を挙げて予防事業をサポートする予定で進めており、構想段階だが、8町に対して1町1事業所という担当制にしたいと思っている。地区の中にしっかり入り、より細やかに地域の課題を共有し、ケアできる体制にしたい。

そして、専門職がかかわったことの効果を出さなければ我々の役割はなくなるので、評価や効果判定をどのように行うのかということも重要な検討課題と思っている。早速10月からスタートする。地域で会うことも多いと思うが、ぜひよろしくお願ひしたい。

#### （5）グループディスカッション

地域ケア会議（横田に住んで良かった！を実現する会議）の次の一手は？

##### 1 グループ発表：

行政主体から住民主体への移行について、官民一体の仕掛け人が必要であり、運営組織を結成する。具体的には、課題解決に向けた部会をつくるということが挙げた。また、会議に参加する方はその場で意見が聞けるが、会議に出てない人からも声を拾うということで、インタビューをするのもいいのではないかと。あわせて、会議の中で1人1回は発言をするような会議の進行をしてみてもどうか。

周知の方法はメンバーの口コミ。また、会議の様子を回覧の中に組み込み、回してみてもどうかという意見が挙げた。開催する場所が1カ所では、遠くの人が来られないこともあ

るため場所を移動し、誰でも参加できるような機会を設けたいという意見が出た。

**ヘルスプロモーション推進センター 岩室紳也氏：**

質問。インタビューは誰が行くのか。

### **1 グループ発表：**

例えば運営組織をつくったと仮定し、地区の誰かが出てこない方の家に行き、このことについてどう思いますか？ ということ聞いてはどうかと思った。

### **2 グループ発表：**

今回の切り口について、課題解決や強みを生かすため、どんなことをやりたいかに焦点を当てた話し合いができたと思う。やりたいことが一人でできることなのか、グループで行うことなのか。それに対しての役割分担や道筋・目標を立てることで活動しやすくなる。そして、できることを一つ一つ解決していき、クリアしたことをケア会議で発表することも大事であるという意見が出た。

また、横田町民にPR活動を行い、メンバーを呼びかけることで新しいグループができる。メンバーは、ケア会議に出た参加者が新しいメンバーを連れてくるなど、雪だるま式に巻き込んでいくことも必要。具体的に、消防団はとても熱い方がいるそうなので、消防団員を呼んではどうかと話が出た。集まる場としては、横田に焼き肉屋があるので焼き肉屋はどうか。また、集まる場を毎回変え、そこに新しい人が入ってくるのもいいという話が出た。

### **3 グループ発表：**

運営面と内容の話が出た。よりローカルな議論になると、もっと具体的な解決策が出てくるという意見が出た。また、年代別会議を開くと、話しやすいという意見も挙がった。

場所については、コミセンは敷居が高いので仮設の集会所や子育て支援センターなど、いろいろな場所で会議を開いたほうがいい。横田町はつながりが多い地区のため、それぞれができることを掲示し、お互いに助け合える住民のネットワーク化をつくるという意見が出たが、横田町の人柄も考慮し、やわらかいネットワークをつくっていけばいいのではないかと。

保育園の隣にコミセンがあるので、世代間交流をしながらいい町にしていくという意見が挙がった。また、横田町の強みを決め、例えば虫歯ゼロの町 横田町のようにテーマを掲げて進めていくのもいい。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

今出た意見をもとに、奥村さん、蒲生さん、\_\_\_\_\_さんから感想をいただきたい。

**保健師 蒲生紋子氏：**

確かに高齢者の意見しか出ていないと気づかされた。参加者には学童クラブや保育所関係の方もたくさんいたが、意見が出ていないというのは、こちらの投げかけに問題があると思

う。皆さんの立場で困っていることを投げかけると、身近な課題が出てきたのではないかと気づかせてもらった。次回につなげていきたい。

1班の口コミはとてもいい。若い方はフェイスブックをやっている方が多いと思う。フェイスブックで横田の会議があったと書き込んでもらうことで、広がりが出るのではないかと。

#### **社会福祉士 奥村真以子氏：**

課題は年代で違うことや共通課題も見えた。自分たちの町をよくしていくための方法を考えるのが住民であり、行政はどこをフォローしていくのか手法を考えなければいけない。

会議に出ない人へのインタビューは、とてもいいが、こちらから言ってしまうと、「行政に言われたから」となる。自分たちのこととして考えてもらうため、私たちはスキルアップしなければいけない。この会議を通して自分たちの力で生活がよくなった、安心できるようになったという具体的なものができると、皆さんの意欲につながるので、何か一つ形にしたい。

#### **大船渡保健所 所長 久保慶祐氏：**

久しぶりに未来図会議に出席したが、建設的な議論がされており、勉強させていただいた。岩室先生からの問題提起は、健康と文化。大きなテーマであり、健康と文化は常に対立関係をはらみながら、お互いを支持していくことと思う。また勉強させていただきたい。

#### **ヘルスプロモーション推進センター 岩室紳也氏：**

住民と一緒に考え地域をつくることは、すばらしい第一歩である。課題解決に入ると泥沼に向かう可能性もあるが、どのようにバランスをとりながら進めるのかも考えていただきたい。地域ケア会議は、行政は絶対に足を抜かず10年、20年続けていくことがいいが、かわり方の強弱はつけなければならない。そんなとき、リハビリを文化にしたいという集団を巻き込んでいくと、新しいものができ、陸前高田に視察がどンドン来るのではないかと。

### **3 その他連絡・アナウンス**

#### **・イベントのご案内**

**(陸前高田療法士グループ 作業療法士 高梨信之氏)**

盛岡市で介護福祉のイベントを行う。コミュニケーションが難しくなった相手とのやりとりなど、いろいろな話をしたい。10月11日、場所はアイーナ。よろしく願いしたい。

#### **◇次回：平成27年10月29日(木)**

メインテーマ：(仮)出張未来図会議(※未来図会議としては初めての試み)

～下和野災害公営住宅暮らしと健康に関する調査からみえるもの～

会場：下和野災害公営住宅(※交渉・調整中)